

**\* 「看護小規模多機能型居宅介護あい」トータルケアの実現を目指して 報告 \***

5月に開設された「看護小規模多機能型居宅介護あい」には、暮らしネット・えんからも職員が出向している。堀ノ内病院副院長・地域医療センター長であり、えんの理事である堀越洋一先生から講演があった。その内容をお伝えしたい。

看護小規模多機能型居宅介護とは、「通い」「泊まり」「訪問看護」「訪問介護」の4つのサービスを一体的に受けられる、高度な医療が必要な人にも対応、利用者や家族の状況が変わった場合も臨機応変に組み合わせて提供、という特徴がある。

そして、看護小規模多機能型を利用するのは、以下のような方が想定される。

- ①医療を必要としている
- ②介護の必要度に比べて、家庭での介護力が十分でない
- ③人生の最終段階にさしかかっている
- ④全人的苦痛(トータルペイン)さを抱えている＝身体的苦痛、心理・精神的苦痛・社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛。

このような特徴を持つ看護小規模多機能では緩和ケアが重視される。多職種で実践する緩和ケア・アプローチには5つの原則がある。

- ①QOL重視のアプローチ:疾患の治療や治癒より生活の質を重視する
- ②全人的アプローチ:緩和ケアを必要とする個人を、医療や社会援助を必要とする「患者以上の存在」(ひとりの人)として捉える
- ③患者とその人に関わる人達(特に介護者)の両者を包含するケア
- ④患者の自律と選択を尊重するアプローチ
- ⑤率直かつ思いやりのあるコミュニケーション

医療依存度が高くて命の終わりが近づいている人のケアでは、どうしても医療的な処置が優先してしまう。だからこそ、その人の人間らしさを尊重するケアが求められている。「最期まで、可能な限り、日常に近い時間を作り出すのが介護職の役割(小島代表)」という介護の役割が重要になる。「えんからあいに出向してくるスタッフがそんなケアを目指すと、その影響は徐々にでも周囲に広がるだろうと期待されます。えんと堀ノ内病院が協力する本来的な意義はこの辺りにあると私は思っています」とまとめられた。

看護小規模多機能型介護あい、堀越先生が話されたようなケアを提供できるようになる日が一日も早く来ることを願っている。

(ケアプランえん/金貞子)



スタッフによる会場の  
フラワーアレンジメント